

蒙爲雄國、故以國號曰大蒙古國、亦女眞亡臣教之也(中略)今所行文書、皆亡臣識字者、強解事以教之、南遷錄載韃有詔與金國、稱龍虎九年非也、以愚觀之更遲年歲則金虜叛亡之臣必教之」と見えて居る。これによれば兩者共に干支を以て歳を紀することは後のことで、初めは十二支辰象のみを用ゐて居たといふのであるが、元朝になつてからも諸所に建てられた碑文、もしくは典章の類に據つて考へると、祕史と同様に十二支辰象のみでするのが原則であつたことは明らかである、干支を用ゐることは漢人契丹人女真人等が教へた所とするも、十二支辰象を用ゐることもまた彭大雅の「昔用十二支辰之象、今用六甲輪流、皆漢人契丹女眞教之」と記した所を信すべきであらうか、自分は蒙古族（所謂蒙古族にて匈奴等の種族を指すのではない）の此の考は、彼等より以前にこれを有して居たものから受け入れたに過ぎぬとする點に於ては、もとより之を承認するが、然も之を漢人女真人契丹人等より得たと見ることは如何かと思ふ、元來十二支辰象の起原については、印度起原、埃及起原、カルデア起原及びトルコ起原等の諸説があつて、何れとも定まらない、*Chavannes*^⑦氏は匈奴に既に此の考があつたもので、支那には匈奴から傳へられたものとし、そうして匈奴をトルコ族と考へて、トルコ起原説を主張するのであるが、もしこれが事實ならば匈奴を主として蒙古族であるとする人々は、同様にこれが廣き意味に於る蒙古起原説を主張し得る次第で、祕史の紀年の法は古く此の系統に出づるものと論じ得られるであらう、併しながら *Chavannes* 氏の此の考は趙翼の陔餘叢考卷三十四、十二相屬起於後漢の項に「竊意、此本起於此俗、至漢時呼韓邪歎塞入居五原、與齊民相雜、遂流傳入中國耳」とあるのを主要なる據としたのであるが、趙翼の説の根據は何れにあるか一向明らかでなく、たゞ一個の想像と思ふより外ないから、これによつてトルコ起原説を唱へるのは危険である。しかし今のところ北方民族で